

「ダンゴムシ探し」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

ダンゴムシは「子どもたちの虫探し入門」には絶好の対象と言える。昆虫ではないが、脚がたくさんあって、動きがユーモラスだ。ちょっと驚かすと、丸くなってそのままコロコロころがったりして、何となくかわいらしいのだろう。チョウやその幼虫などの昆虫類が苦手な子ども(特に女兒)でも、「ダンゴムシはかわいいから好き」という者も多い。



今の時期、ダンゴムシはどこにでもいる。このような「ダンゴムシサイズの土のかたまり」がゴロゴロしているようなところをちょっと掘ると、ほぼ100%発見できる。ミミズと同じような環境を好むのだ。



このようなレンガやブロックに、落ち葉や土が積もったところを少し払うと、いわゆる「ダンゴムシの巣」が見つかることがある。



小学校の畑の周囲にも「ダンゴムシの巣」はたくさんある。少し落ち葉や土をどけると、小さなダンゴムシが、一気に数十匹見つかることもある。



そういう場合は1匹ずつ採るのは無理なので、スコップで土ごとすくって、そのまま容器(この場合はフタ付シャーレ)に入れると良い。

大きなダンゴムシは、落ち葉をそのまま食べてくれるので、世話は楽だ。小さなダンゴムシはエサが難しい。落ち葉を直接食べるというよりは、少し粉碎されて土状になったものを好むからだ。

一番良いのは実は「粉チーズ」である。粉チーズは、小さなダンゴムシも大きなダンゴムシも好んで食べる。実はコオロギも粉チーズが大好物なので、今の時期、教室や理科実験室に1本置いておくともとても便利である。

